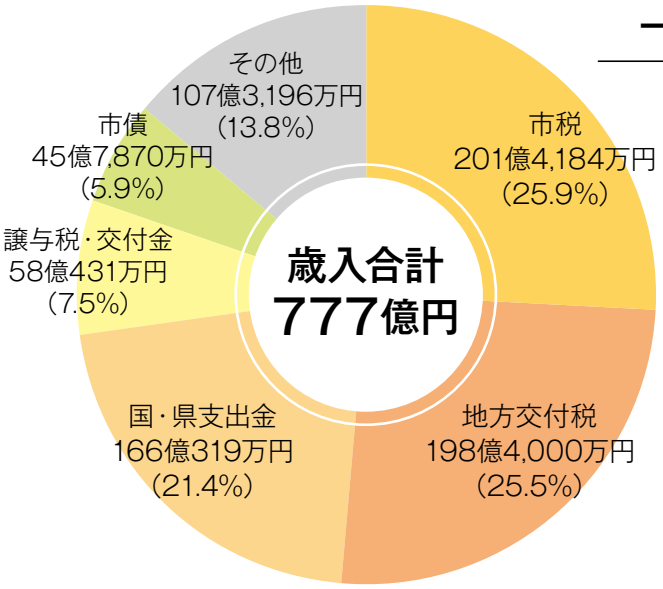
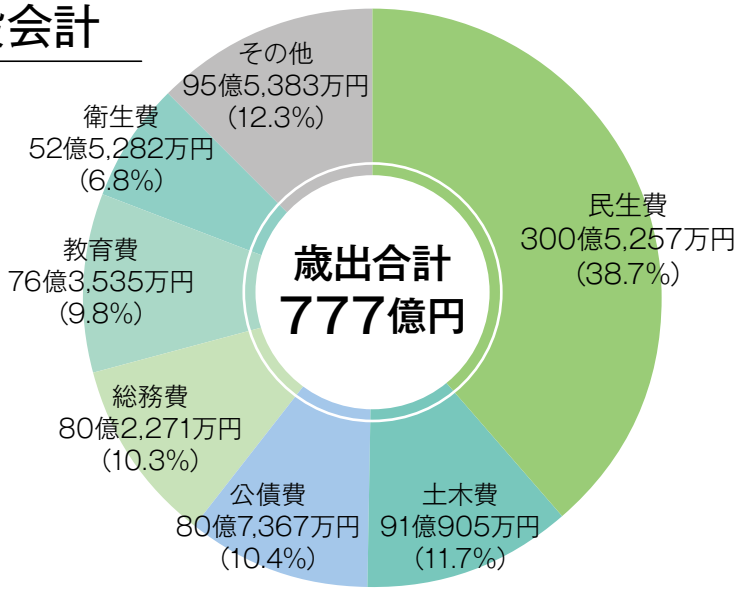
令和6年度　今治市の当初予算

問合先　財政課
TEL 0898-36-1505
FAX 0898-32-5211㈹

予算総額 1,374億1,310万円（対前年度比1.7%増）

一般会計





今治市のオサイフ事情

令和6年

「財政のしくみや用語は複雑でわかりにくい」という言葉をよく耳にします。そこで今治市の財政をもっと身近に感じてもらうため今治市のオサイフ事情（財政状況）を、できるだけ「わかりやすく」「簡単に」紹介します。

16～19ページ参照

家庭と市役所では、お金の使い道が違うので単純に比べられませんが、一般会計の予算（777億円）を1か月あたり41万6,000円（年間500万円）の家計に置き換えてみると…

収入（合計）41万6,000円

- ■給与 …… 26万3,000円
  - 内訳
    - 基本給　12万6,000円（市税、使用料など）
    - 手　当　13万7,000円（地方交付税など）
- ■親などからの援助 …… 8万9,000円（国・県支出金）
- ■ローン借り入れ …… 2万4,000円（市債など）
- ■その他 …… 4万円（繰越金など）

ポイント

給与のうち、基本給の多くが市民の皆さんが納めた市税です。手当のうち地方交付税は、どの市町村も標準的なサービスを受けられるよう地域間格差を解消するため、国から交付されるものです。

国・県支出金は生活保護や道路整備など市の事業の一部を国や県が一定割合負担するものです。

支出（合計）41万6,000円

- ■食費 …… 7万4,000円（人件費）
- ■日用品や光熱水費などの生活費 …… 7万3,000円（物件費など）
- ■医療費・保育料など …… 9万4,000円（扶助費）
- ■家屋の増改築・車の購入など …… 4万円（普通建設事業費など）
- ■子どもや家族への仕送り …… 8万6,000円（繰出金、貸付金など）
- ■ローンの返済 …… 4万3,000円（公債費）
- ■預貯金 …… 6,000円（積立金など）

ポイント

医療費・保育料など（扶助費）、ローンの返済（公債費）、食費（人件費）の3つは「義務的経費」と呼ばれています。これが多いのは、家計にあまり余裕がないことを示していますが、**今治市の義務的経費の割合は52.5%で前年に比べて0.3%改善しています。**

予算総額		
1,374億1,310万円（対前年度比1.7%増）		
内　訳		
一般会計	特別会計	企業会計
777億円 （対前年度比3.3%増）	416億9,890万円 （対前年度比0.9%増）	180億1,420万円 （対前年度比2.8%減）

令和６年度一般会計予算総額は、前年度比24億5千万円増の777億円となりました。また、全ての会計を合わせた予算額は1,374億1,310万円となりました。

合併20周年の節目を迎え、20年、50年先も「ずっと住み続けたいまち」として持続的で魅力あるまちづくりに取り組むため、人口減少対策やDX・GXの推進、能登半島地震を教訓とした防災・減災対策など、当面する諸課題に的確に対応する事業の推進と「子育て」「産業」「教育」に重点を置いた“未来への種まき”となる積極的な新規施策を盛り込みました。

用語豆知識

■予算
1年間に必要な金額をどのように割り振るかを決めたもので、市民の皆さんが納めた税金などがどのような事業にどれくらい使われるかを示したものです。

■一般会計
福祉、医療、教育、道路や公園の整備など、市民生活の基礎的なサービスにかかる費用を計上したものです。

■特別会計
特定の事業（港湾事業、国民健康保険など）を行う際に、収支をはっきりとさせるため一般会計と分けて経理する会計です。今治市には現在9会計あります。

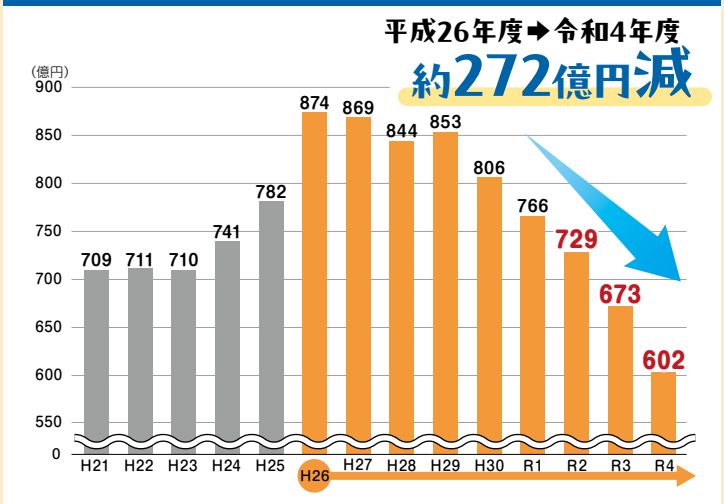
■企業会計
発生主義に基づき、複式簿記により経理される事業会計で、当該年度の企業の経営活動で発生する収益とそれに対する費用を指す収益的収支と、サービスの提供に必要な施設の整備や更新に要する支出とその財源を指す資本的収支の２つから成り立っています。今治市には現在４会計があります。

Q「どれだけあるの？今治市の借入金」

5年連続借入金を減らしています！

平成29年度から令和4年度まで5年連続で借入金を減らし続けています。

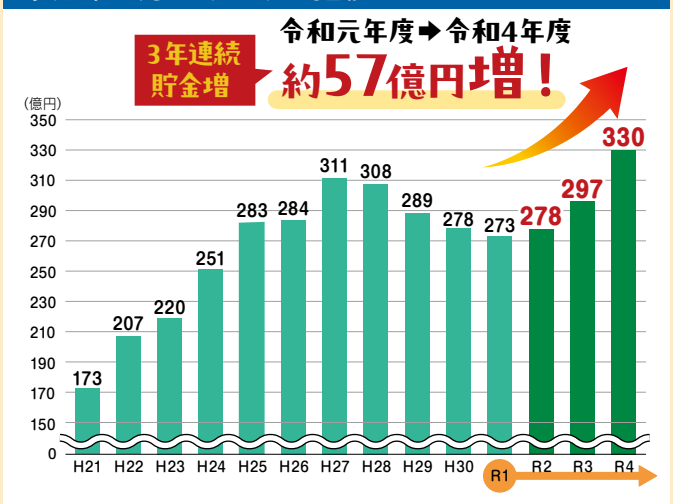
今治市の借金（市債残高）の推移



Q「今治市の貯金はいくらある？」

令和元年度以降、毎年貯金を増やし続けています。貯金は３年間で約57億円増加しました。

今治市の貯金（基金）の推移



今治市が災害等の財源不足に備えるための貯金

173億円
（令和４年度末　財政調整基金残高）

今治市の財政規模の目安の90億円を大きく上回っています。

Q「今治市の財政状況は大丈夫？」

市町村毎に収入や支出の内容が異なっているなかで、全国統一の指標で財政情報を比較できる「健全化判断比率」という指標があります。

実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率および将来負担比率の４つの財政指標の総称で、いずれかの指標が基準以上になると財政健全化団体または財政再建団体になります。**今治市はいずれの比率も良好ですので、健全財政を維持しています。**

市民が真ん中で駆ける今治

～未来への新しい風を確かなものに～

7つの柱

令和6年度はこのような事業を予定しています。

01 直面する課題への対応

■地域人材交流支援事業
■給食費等の負担軽減による子育て支援

■ＡＩ技術を活用したインフラメンテナンス・防災対策事業

物流・建設業の2024年問題対応支援

トラック物流や建設業の働き方改革を促進するため労働環境の改善や資格取得に対する助成など、業務効率化と人材確保に取り組む事業者を支援します。

02 「市民が真ん中」のまちづくり

■戦略的情報発信プロジェクト
■地方創生ＳＤＧｓ推進事業
■しまなみ総合庁舎整備事業
　伯方支所跡地活用事業
■合併２０周年記念事業

住民窓口の多様化モデル事業

「移動市役所」や「今治てのひら市役所」の運用により「行かない窓口」や「書かない窓口」の取り組みを推進し、住民サービスの向上を目指します。

▲書かない窓口

▲移動市役所

03 デジタル化の加速・スマートシティ今治の推進

■保育所等ＩＣＴ化推進等事業
■地場産品販路拡大等支援業務
■オンライン申請フォーム作成支援業務

デジタル地域通貨導入実証事業

行政での各種給付金の支給や健康ポイント付与など、さまざまな施策への活用の可能性を探り、地域経済とコミュニティの活性化に繋げます。

今治市のオサイフ事情 令和6年

Q 「なぜお金をかりるの?」

「借金（市債）は少ない方が良い」と考えるのは当然ですが、道路、学校、公園などの公共施設の整備には多額の費用が必要です。これらの費用を1年間で支払うと、その1年は他の事業ができなくなってしまいます。また、公共施設は将来にわたって市民が利用するものであり、負担の公平性を図る観点から市債を活用して世代間で平等に費用負担していただくものです。さらに、市債の返済（償還金）には国から仕送り（交付税）があります。

市債の残高は、令和４年度末に一般会計で602億円となっています。これまで小中学校の耐震化や新ごみ処理施設（バリクリーン）など施設の整備や道路事業に活用してきました。

これからの取り組みについて

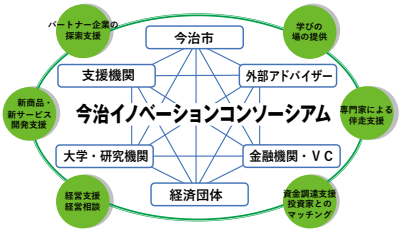
合併後の大型事業が一段落し、今治市の財政状況は、着実に改善しています。もちろん、心配がまったくないわけではありません。人口減少が避けられない中で、市税収入の増加は期待できません。一方で、老朽化が進んでいる公共施設等の更新などに、多くの予算が必要です。そうした状況にもしっかりと対応できるよう、持続可能な財政運営に努め、選択と集中による「真に役立つ施策」を展開してまいります。

04 瀬戸内クロスポイント構想の実現
（経済の新しい成長とi.i.imabari！のパワーアップ）

■デジタル人材育成事業
■もどろう今治！セカンドキャリアUターン促進
■地域通訳案内士養成事業
■スポーツ文化ツーリズム体験型プログラム造成促進事業
■サイクリングしまなみ2024の開催
■第2回今治クリテリウムの開催
■食と農のまちづくり推進事業
■地域おこし協力隊活動事業（林業関係ミッション型）
■森林環境整備、林道整備事業

地域産業デジタルイノベーション加速化事業

「今治イノベーションラボ」を立ち上げ、AIやロボットなど最先端技術を活用し、ものづくり企業の技術開発や生産工程の変革、販路開拓の取り組みを支援します。



05 島と海と陸をつなぐ魅力あるまちづくり

■地域公共交通活性化事業
■中心市街地まちづくり基本計画策定業務
■中小企業等先導的脱炭素化モデル創出支援業務
■地域再生可能エネルギー推進事業
■モルックジャパンオープンの開催

「しまなみ海道通行料実質無料化推進会議」の設置

全庁体制による検討会議を設置し、さまざまな角度から実質無料化・利用促進に繋がる具体的かつ効果的な方策を検討します。

06 ひとりひとりが輝く今治の創出

■木育スタート事業
■こども誰でも通園制度（仮称）試行的事業
■町谷きっずパーク（仮称）整備事業
■英語教育の充実
■予防接種事業の拡充
■「終活サポートセンター」の設置
■友愛訪問事業
■障害者社会参加促進事業

今治版ネウボラの推進

イオンモール今治新都市内にサテライト窓口を設置し、保育士や保健師、小児科医などとも連携した「多機能の子育て広場」を展開します。さらに、今治版ネウボラの遊び場サテライトとして「町谷きっずパーク（仮称）」を整備します。

07 防災・減災対策で災害に強いまちづくり

■避難行動要支援者避難支援対策事業
■災害時の医薬品供給体制の確保
■道路損傷検知システム導入
■消防施設整備事業
（消防車両、映像伝送システム整備等）

能登半島地震を教訓とした防災・減災対策

能登半島地震を教訓とし、これまで以上に防災・減災体制の強化を図り、災害時の備えの全面的な見直しを行います。

～まとめ～

令和4年度の収支は約51億円の黒字

歳入　今治市に入ってきたお金…827億円
歳出　今治市が使ったお金……776億円

新しい財源の獲得（令和4年度）

●ふるさと納税（決算約11億円）
●未利用財産の積極的な売払い
（不動産売払収入約3,000万円）
●バリクリーンのごみ焼却熱を利用した高効率発電による余剰電力の売払い（年間約2億円の収入）
●事業目的に応じたクラウドファンディング(約1,200万円)

これからも「ずっと住み続けたいまち」として持続的で魅力あるまちづくりに取り組みます。